

# 博論要旨

## 本研究の問題意識と研究目的

本論文は、現代茶文化がどのように発生し、構築されたのかを実証的に考察するために、中国北部の青島を事例に、その導入、発展過程を検討する。特に中国都市社会における茶と都市生活の関係性を明らかにする。

茶は中国人にとって日常生活と密接に関わるものであり、高度経済成長の文脈の中では、特別の意味が付与された。つまり、中国の飲茶文化は長い歴史を持つ伝統文化の代表に留まらず、中産階級の社会アイデンティティを構築し、彼らのアイデンティティの社会意義となった。

本論文では、中国の急速な経済成長とともに新たな方向へ発展している茶が、青島の住民たちの日常生活に溶け込む過程を考察したものである。本論文の目的は、現代青島茶文化をめぐるいくつかの事例から、青島における茶の導入、茶文化の現地化プロセスを分析し、それを通じて青島住民の生活への影響、変化を明らかにすることである。

具体的には、青島における「南茶北引」の導入、発展過程（栽培、消費）、および改革開放以降の茶文化の普及過程（品飲、茶芸教育、茶席設計）について考察したのち、現代の茶人と茶会のメカニズムや、飲茶空間（茶館から茶芸館への変化）について明らかにする。以上を踏まえ、茶は全国的に飲用するものか、そしてそれは新たな文化として全国的に普及しているか、さらに普及しているとするならば、その要因は何であるかという点を検討し、茶にどのような意味や価値観が与えられるかについて考察する。

## 本研究の構成

本論文の構成は、序論、本論と結論からなる。序論では、研究動機と問題意識、研究目的と研究意義、先行研究、理論、現地調査の記録、論文構成及び内容をまとめる。本論は五章あり、章毎に小括を設けた。結論においては、本論文全体をまとめた。

本論文では、現代中国の茶に関するいくつかの課題をめぐって、青島地域を事例に茶文化と都市市民の生活について検討する。具体的には、まず南茶北引工程からはじまり、茶の青島地域への導入、現地化その発展過程を整理し、それに対応した都市市民の生活の変化を、生活革命の視点から考察する。

第一章では、調査地である青島の都市の歴史、地理及び飲み物に関連する文化を整理し、南茶北引以前の青島の茶の飲用状況を把握する。そこでは、青島における茶文化を客観的にとらえ、今日発展している茶の品飲について検討するため、青島への茶の導入、飲茶習慣などを整理し、青島で生活する住民の茶に対する態度とその受容及び発展史を述べる。

第二章では、「南茶北引」について考察し、青島への茶の導入過程について論じる。本論文で言及する「南茶北引」には、二つの意味がある。一つは茶の栽培の着地を意味する。主に嶗山茶の栽培、販売をめぐる人間関係が茶の生産に与えた影響や、嶗山茶の価値がどのように生産されたのかを論じる。二つ目は、新たな販売、飲茶方式の伝来により、それらの新たな方式が現地化することを指している。

第三章では、茶文化の発展とともに茶芸師という職業が広く認識される中で、近年流行している茶芸師、評茶師の教育について取り上げ、茶文化が青島へ普及する過程を述べる。具体的には、青島の各茶芸培訓（教育）学校、茶博会や茶会の現場で、特に茶芸を習いにやって来る人々とそれを教える先生たちにインタビュー調査を行ない、青島の都市住民にとって茶芸を習う目的、茶芸教育の内容の「生産」、その茶席設計の過程及びメカニズムについて考察する。

第四章では、茶人と茶会参加者の行為を分析し、現代中国都市社会における茶会の意味と、茶会と都市生活の関係性を明らかにする。それを踏まえ、茶人が茶会により社会人間関係を作るメカニズムを明らかにする。つまり、青島に茶文化が普及する過程を述べながら、茶葉の消費者であり、そして新たな飲茶文化の提唱者でもある茶人がどのような都市生活を形成するのかを考察する。

第五章では、青島における公共空間である茶館、茶芸館という空間の消費に注目し、青島市民のライフスタイル及び公共空間の利用状況、消費意識の変化などを通じて、都市市民の飲茶空間の消費をめぐる問題を考察する。青島住民の生活が変化すれば、彼らの娯楽空間、娯楽方式も変化する。茶館、茶芸館は都市で生活している人々の娯楽、リラクセス、交友の「新世界」となる。茶館、茶芸館空間の変遷過程を通じて、青島の新中産階層たちの茶の需要と消費意識を考察する。青島では新たな茶館文化が発展し、茶館（ゲーム室）から茶芸館（清飲）へと変遷した。この一連の変化は、青島市民にとって公共空間の性質、あるいは新たな公共空間の利用方式が認識される過程であり、都市市民にとって新たな空間消費方式の形成過程でもある。つまり、青島における茶文化の現地化の過程を述べる。

最後は、本論文の結びである。これまで論じてきたことをまとめ、そして残された問題、課題などについて検討する。

## 本研究のまとめと今後の研究展望

本論文ではフィールドワークに基づいて、いくつかの研究理論を借りて、生活革命という視点から現代青島茶文化の導入と現地化の過程について考察してきた。以下、本論文の結論をまとめる。

まず、青島における「南茶北引」工程は、茶葉の消費地から生産地へと発展し、「外来」の販売、品茶方式へと発展してきた段階である。青島では、元々茶文化が濃厚ではなかったが、国策である南茶北引工程をきっかけに、茶が徐々に人々の日常生活に入り込んでいった。青島は茶の消費地から、茶の生産地になり、急速な社会、経済の変化の中で、青島

の都市住民たちは消費主義、都市化とメディアの拡大に関連した文化を生産、再生産してきた。嶗山茶の栽培にしろ、「外人」による販売にしろ、茶人を育てることにしろ、それは茶が青島社会に着地する過程であるとも言える。

次に、茶が青島で普及する段階である。中国の高度経済成長とともに、都市市民の生活方式が一変し、市民のニーズが以前と異なってきた。現代人の美意識に合わせて、現代生活にふさわしい美意識を生産している。新たな茶文化の発展により、市民の生活方式、個人的な行為も徐々に変化してきた。例えば、茶芸の習得、茶会への参加により、茶人の個人的な行為を規範され、それが生活の中に組み込まれていき、日常生活に融合し、習慣になる。さらに、その習得過程から現代人が多様な「美」を追求する姿もうかがえ、茶会、茶芸の習得により、日常生活の細部にまで茶文化が影響するようになったことが明らかとなった。

そして、第三の段階は青島での茶文化の現地化である。青島における茶文化の普及とともに、茶は「柴米油塩醬醋茶」から「琴棋書画茶」へと変化し、日常的な存在から非日常的なものになった。茶人、茶会、茶芸館がその証拠である。今日の飲茶は「品味」に変身し、茶の美味しさを追求することに留まらず、芸術品のように鑑賞し、上品な品茶方式を創造し、それにより個人的な美意識を形成する。飲茶という活動は芸術化が促進され、人々の生活スタイルが徐々に洗練されていった。つまり「柴米油塩醬醋茶」の日常性が弱まり、「琴棋書画茶」の非日常性が最も重視されるようになった。

以上から、茶文化は一つの地方の政治、社会と関わり、青島における茶文化の変遷と現地化は、そこに住んでいる住民の生活状況を反映している。1960年代に飲用されていたジャスミン茶と比較すれば、明瞭な「生活革命」と言っても過言ではない。茶を通じて、特に茶芸教育、茶人、茶会および品茶という実践行為を通じて、中国人の生活が著しく変化してきた。青島住民のライフスタイルは茶により大きく変わり、彼らは物質的な豊かさだけでなく、精神的な豊かさも追い求める過程で、住民自らからその言動を正し、人間関係における新たな「資源」を獲得した。

茶人たちが構築した「熟人」関係は、中間層あるいは社会集団においては階層を区分することもある。それは、現代都市住民の間で階層意識が強まった証拠とも言えるだろう。そして、青島住民が茶という伝統的な符号で、自分のアイデンティティを構築すると同時に、個人の消費観も徐々に変化していることが明らかとなった。芸術的な品茶から、茶は現代人が求める「美」として、多様であり、他とは異なる特徴が見られると考えられる。茶芸教育課程の茶席を分析すると、茶葉の淹れ方であろうと、茶席設計であろうと、その要素の受容から現代茶席は「創造」、「生産」されたことが明白になった。

つまり、現代の青島人にとって、基本的な生活が送れるようになったからこそ、個人的な行為、趣味などを追求する余裕ができた。茶の飲用、教育により、茶を通じて青島人が「文明化」したと言ってもよい。「倉廩実而知礼節」という語のように、青島住民が茶の追求により、その生活が「生活革命」をしたことの証明できる。

市民が日常的に物質的に満足したら、身体、価値観、消費意識が変化する。経済が高度に発展すると、人々の消費は徐々に物質消費から精神的な文化消費に移行し、生存型消費から享受型、発展型消費になる。このような変化は、現在、茶がエリート消費から大衆消費へと変化していることにも反映されている。

青島地域の茶文化発展過程は、明確に「無い」から「有り」へと変化した。さらに現代青島での茶文化の導入と現地化の過程を考察することによって、青島の都市住民の日常生活だけではなく、彼らの生きる意義が見えてくる。茶は現代中国都市住民の生活革命の一つの例であるが、彼らの生活を考える上で多くの示唆を与えてくれるものである。

改革開放以降の中国人民の生活を考えるうえで茶は重要な存在であり、特に市民の生活スタイルの形成に関わるものである。今後、中国の茶文化はさらに繊細な方向へ発展していくと思われる。中国の茶文化の発展過程を考察することは、現代中国社会、都市住民の日常生活を把握することとつながるため、今後も青島茶文化の発展を注目し続けたい。特に青島という地方茶文化研究の更なる発展を図り、豊かにさせることができると願っている。